(129)

ある。 らるべ **)** Third trochanter 大腿骨自身の軸 何とも云へね。 獺澤人骨が津雲 れば予が手 種 0 き問題であ 族と思ひ込んで取 0 頭 底 及 縁を含む 頸はそれ丈の破 許 と頸とのなす角 ts 30 は る日本人の 人種に屬するかどう 更に頭骨の ごく弱 面 と頸 本邦の先住民を最初から りか をの く單に型ばか 一發見を待つてゆ よりは ふる事 片 なす角 であ が津雲人種 には予は る 小 んより か。 から v b かっ 見ら それ 剚 確 B 0 大不 るり と同 とは 斷 知 は すると、 n n 人種又 様とも 賛成 る。 目 D 云 决 下 난 Ø 大 で 0

る

Ħ

13

は

腿

よくな 住みよ に於て は 古もさる大差若 了物學 近 本邦 北 も他 いとは よりすべく西 の本邦に最初より る等の事があるべきである。 すらも氣候變遷の 上よりも 0 か 地 h 地 し地 方に住みよくはない。 形は長く、 思 は 推 n しくは一層甚しき大差あつたらう事 が住み惡しく、 せられ ฆ よりすべく將 氣候風 る。 單一人種を豫想する事 跡あるを見る。 土は所によりて大差 住み惡しか 地 南よりすべく 方に住る 更に予は新石器時代 更に本邦 それ 一みよい b に伴うても では合理 開 人種 0) 地 が あ いて居 侵 住み は古 入路 は必 3 中 的

前介塚、 0 たが、 人骨に就ては稿を更め 中澤濱介塚、 それ 等は取 り 立 金寶介塚等より て述べ てる程の材料 る。 B でもない。 腿骨 破片

松本彦七郎

シ 口 ヺ ピ 7 ダ ラ 雌 雄 0

れし 長野 事とせり。 別に就て、 ヲ 昆 故、 F, 菊次郎氏が始めて我國に 山 7 氏は臺灣及石垣 世 予が弦 夕° 此 ラの産する事を發表し、 附 第二十二 に蛇足 加し たき事あ 卷第二百 を加 温島産の £ ものに依て、 れば左に其の大體を記 るの必要な Euploca cratis Butler 二十 八 大に吾人を裨益 號 (大正五年) しと雖雌雄 細に 述 於て、 せら σ す ベ b る

of new genera and species." Zool. 雌雄を區 にては、 白斑 tells naina and Euplocina, two groups of diurnal Lepidoptera て檢したるに雄は少しく凸狀を呈し Emploca 屬に於て屢 各個體に於てすら多少の差異あればな んど真直な 六十九頁 Sabanosa cratis の條下に " belonging to the subfamily Euplocinae; with descriptions 長野氏は の大小差 何とな me Soc. 唯白斑 that 別し るを知 London," 1883 12 セ m ば斑 異あ 得るに非ずやと思考し予は所藏の標本に क्रती ンペルに從ひ、 the 一の差異のみに依て之を區別するは難 り得 紋 3 female ore は雌 を述べら (々見る. たり、尚之に關しては Surw 雄 앍 如 12 this 所載 "A monograph of Lim-By F. 雌は雄と大回 ζ 依て一定せざるのみならず れしと雖、 the 前 insect翅の posterior margin is ・略闘は雄の如し、昆虫世界所載の MOORE, Mr. 後 b ŭ 予 緣 (FEORG SEMPER like 小異に 0 0 既に、Proc の内第二百 形狀 見 るに多く the 72 る標 E して 雌 據て 事 は 殆 就 な

ロチ ビマダラ雌雄の 區 別

O ₹

日 五 4 月 四 IE 大

事を得たり。 convex." とあり之に據て尚 層 此事 實を的 確に認むる 仁禮景雄

記

醫學士額田晋氏の二―三の節足動 就ての講演あり出席者二十五名。 月十七日午後二時より例會を開き鏑 月三月例 物 及脊椎動物の心臓に 月廿七日例 木 岐 雄 を開き 氏

蟲に氣管氣孔の存在及比較を述べられたり出席者三十二 忠氏は「トロンビーデー」の氣管系に就てアカムシの成 プラナリア」の生殖史特に精子囊の形成に就て奥 村 多

三時半散會出席者二十名。 及びモンガラカワハギの如き魚を供覧せられたり。 赤 1 ホ 三月廿四 w の氣 タルの發光器に就て奥村多忠氏は の護謨園産 weaver-bird (Ploreus baya) の巢二個 **、管及唾** 日午後二時より例會を開き谷津直秀氏は 線に就て講 演せられ多湖實輝氏はジ 「トロンビー 午後 3

大阪府三島郡大冠村大字西天川

礢

村

純

九三四、口縣佐波郡防府町大字東佐波令

Ħ

木

考

귦

尾

條

規

熊本縣鹿本郡來民町一五九五

退會

宇都宮中學校 福岡市西中洲島津製作所九州支店 丹羽四. 加門桂太郎

東京府茨原郡北品川御殿山益田方 東京府下代々木富ヶ谷一五二八 東京市牛込原町二ノ一三 東京京芝區白金三光町五〇六沼田方

愛媛縣宇和島町愛媛縣水產試驗場 多 奥 石河 湖 村 重

小 川弘 祐 次 太 郎 一樹男 夫 輝 忠 美清

宮城縣桃生郡船越高等小學校 東京市外澁谷四二五吉川方

東京市本鄉區春木町三丁目四 東京府下中野町蠶業試驗場

高知縣高岡郡浦之內村小光松 大阪市北區北野小松原町三六七

片

大森英夫 之 太 義 鄓 助 彦

和歌山縣伊都郡高野山四一八 弘前市南川端町一三 盛岡市內丸岩手縣師範學校

二八